令和２年度

「部活動指導者の意識調査」
～運動部活動の在り方に関する方針の理解について～

沖縄県中学校体育連盟調査研究部

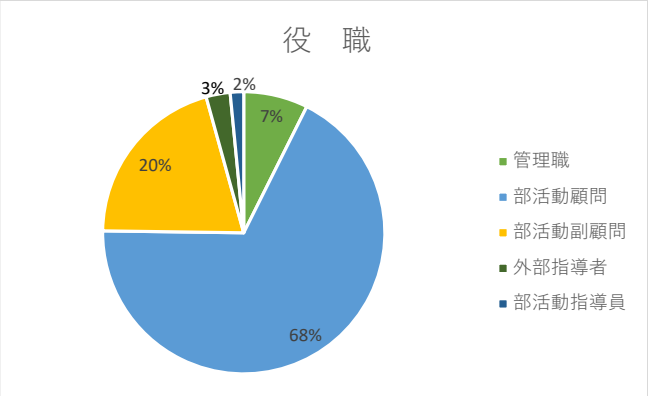
令和２年度県中体連調査研究部
部活動指導者意識調査まとめ

この調査は「運動部活動の在り方に関する方針（平成３０年１２月沖縄県教育委員会）」の内容から作成し、その方針の周知と推進を目的としています。部活動に関する改革が加速している今日、子どもたちを支えている指導者の方々がその変化に適応し、共に望ましい運動部活動を目指していくための一助資料となれば幸いです。

n= 908

１、あなたの役職をお答えください。

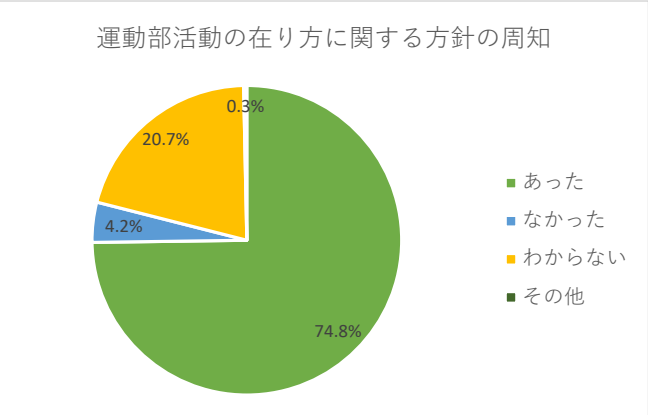
	n	%
管理職	67	7%
部活動顧問	616	68%
部活動副顧問	186	20%
外部指導者	25	3%
部活動指導員	14	2%



・管理職も含め908人から多くの回答をいただいた。
・部活動顧問、副顧問以外の指導者からも様々な回答がいただけ貴重なアンケートとなった。
・コロナ渦の影響等もあり、前回のアンケート調査より回答数が減少したことは残念であり、もっと多くの意見を取り入れ課題に対応していくためにアンケートの協力を今後も呼びかけていく。

２、各学校において「運動部活動の在り方に関する方針（平成３０年１２月沖縄県教育委員会）」についての周知はありましたか

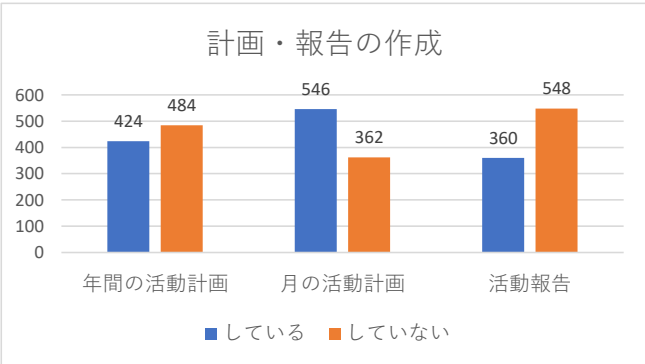
	n	%
あった	679	74.8%
なかった	38	4.2%
わからない	188	20.7%
その他	3	0.3%



【結果・考察】
「あった」と回答している方が約７５％であったが、「なかった」・「わからない」という回答している方が約２５％であった。管理職・指導者の部活動改革に対する関心、多忙、周知体制等、様々な理由が考えられるが、共通理解・実践が適切な運営のための体制設備の柱となるため、100％を目指して周知を工夫する必要がある。年度初め、年度途中（新チームスタート時）に「運動部活動の在り方に関する方針」に則り作成された「望ましい運動部活動を目指した活動方針（沖縄県中学校体育連盟）」を周知していきたい。

３、年間の活動計画並びに毎月の活動計画・報告を作成していますか

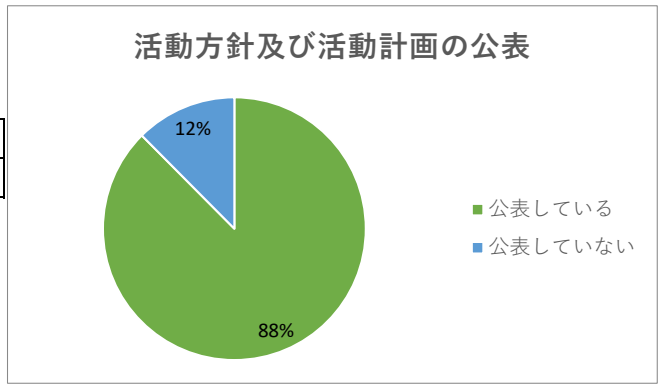
	している	していない
年間の活動計画	424	484
月の活動計画	546	362
活動報告	360	548



【結果・考察】
「年間の活動計画」及び「活動報告」を作成していますかという質問に対し「していない」と回答する数値が上回った。「作成の必要性を感じていない」、「作成することの負担」等の理由が考えられる。学校長が各部活動の活動内容を把握し、適宜、指導・是正を行うことは、適切な運営のための体制設備に繋がると考える。そのため多忙の中ではあるが作成をお願いしたい。また、簡素で活用しやすい様式の作成（学校の設置者が作成）も確認していきたい。

4、保護者等に対し部活動の活動方針及び活動計画を公表していますか

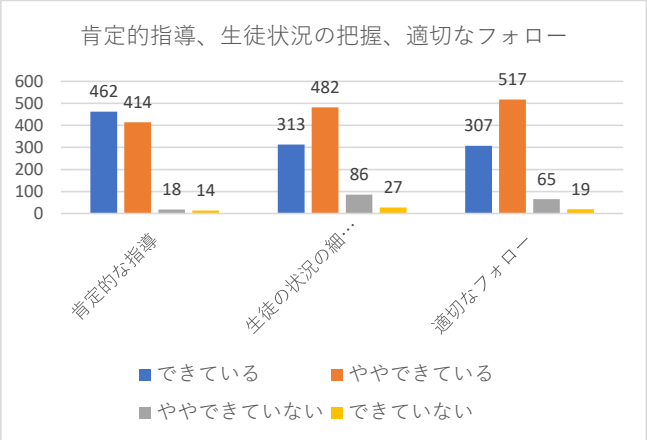
	n	%
公表している	795	88%
公表していない	113	12%



【結果・考察】
保護者等に対し部活動の活動方針及び活動計画を「公表している」が８８％　「公表していない」が１２％であった。作成している9割近くの学校がホームページや部活動結成式等で方針を保護者に伝えていると思われる。説明責任のある学校は１００％の公表を目指して活動する必要があると考える。

5、生徒自らが意欲を持って取り組む姿勢となるよう、心理面を考慮した肯定的な指導、生徒状況の細かい把握、適切なフォローを加えた指導等、指導者と生徒の信頼関係を前提とした指導を行っていますか

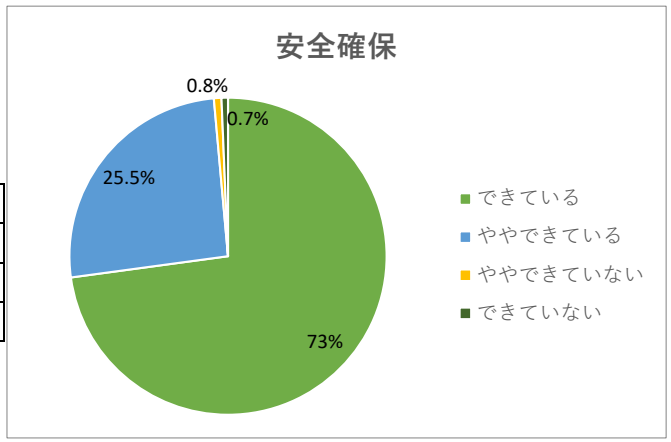
	できている	ややできている	ややできていない	できていない
肯定的な指導	462	414	18	14
生徒の状況の細かい把握	313	482	86	27
適切なフォロー	307	517	65	19



【結果・考察】
肯定的な指導や生徒の状況の細かい把握、適切なフォローなどが「できている」、「ややできている」との回答が9割を超えた。生徒との信頼関係を築きながら、意欲を高めていくことが部活動の指導において大切であることが浸透してきている。

6、生徒の安全確保（活動場所・器具の安全点検、熱中症・落雷対策など）を最優先としていますか

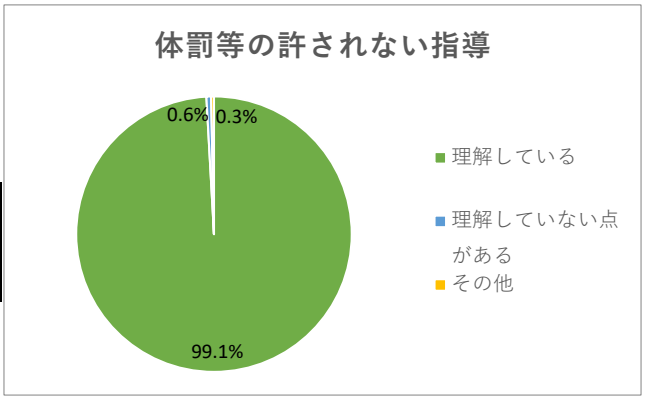
	n	%
できている	663	73%
ややできている	234	25.5%
ややできていない	7	0.8%
できていない	6	0.7%



【結果・考察】
安全確保を最優先にしているかについて約９９％が「できている」、「ややできている」と回答している。指導者側も安全面の配慮が最も重要であると捉えており、常に情報を共有し事故防止に努めることが必要である。

7、体罰等の許されない指導（暴力・暴言・パワハラ・セクハラ）についてしっかり理解していますか

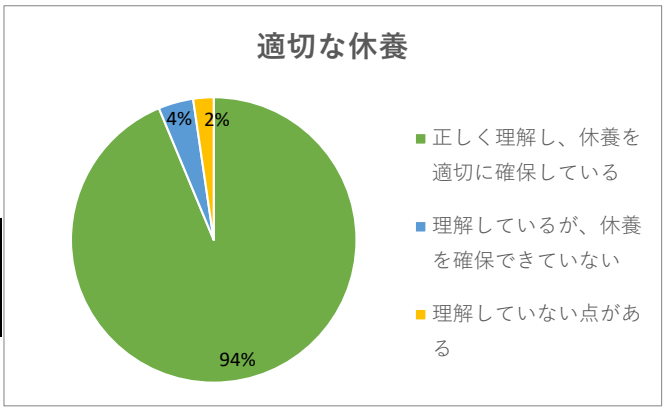
	n	%
理解している	900	99.1%
理解していない点がある	5	0.6%
その他	3	0.3%



【結果・考察】
「体罰等は許されない指導である」と約９９％が理解していると答えている。体罰等の許されない指導（暴力・暴言・パワハラ・セクハラ）が指導者側に浸透してきていると言える。また「厳しい指導」と「許されない指導」の違い等について情報資料を提供することで、より理解が高まっていくと考える。

8、トレーニング効果を得るために休養を適切にとることが必要であること、また、過度の練習がスポーツ障害・外傷のリスクを高め、必ずしも体力・運動能力の向上につながらない等を正しく理解していますか

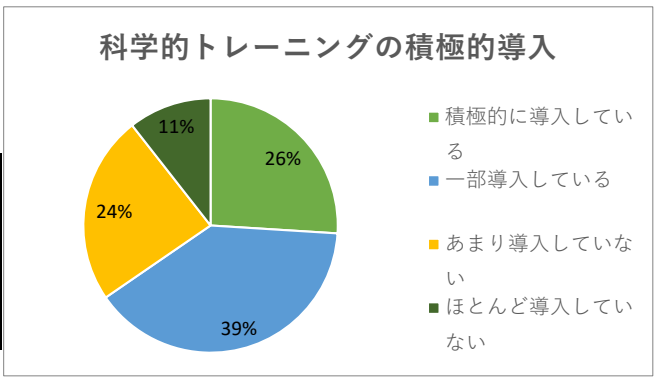
	n	%
正しく理解し、休養を適切に確保している	851	94%
理解しているが、休養を確保できていない	36	4%
理解していない点がある	21	2%



【結果・考察】
「正しく理解し、休養を適切に確保している」が94％となった。トレーニング効果を得るためには適切な休養の取り方が県全体で定着してきているのを裏付ける数字であると考えられ、「運動部活動の在り方に関する方針」の周知及び推進をしていくことで、より良くスポーツ医・科学に基づく適切な運動部活動の実施に繋がると考える。

9、競技団体等が奨励している科学的トレーニングを積極的に導入し、短時間で効果が得られる指導を行っていますか

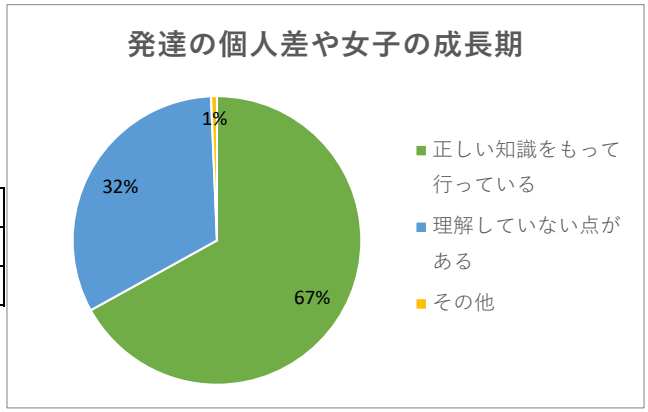
	n	%
積極的に導入している	236	26%
一部導入している	358	39%
あまり導入していない	218	24%
ほとんど導入していない	96	11%



【結果・考察】
「積極的導入」・「一部導入」が65％、「あまり導入していない」・「ほとんど導入していない」が35％であった。各競技団体は必要な講習会等を実施しているが、教職員の多忙の中、そのような講習会等、知識を学ぶ機会に参加できない現状もあるのではないかと推測する。中央競技団体が出している「運動部活動における合理的でかつ効率的・効果的な活動のための指導手引き」の周知等が不十分であることも原因の一つと考えられる。指導手引きを普及・活用することで、生徒の体力の向上や、生涯を通じてスポーツに親しむ基礎を培い、それぞれの目標達成に繋がることが期待できる。資料を提供することで普及・活用を図りたい。

10、発達の個人差や女子の成長期における体と心の状態などに関する正しい知識を得た上で指導を行っていますか

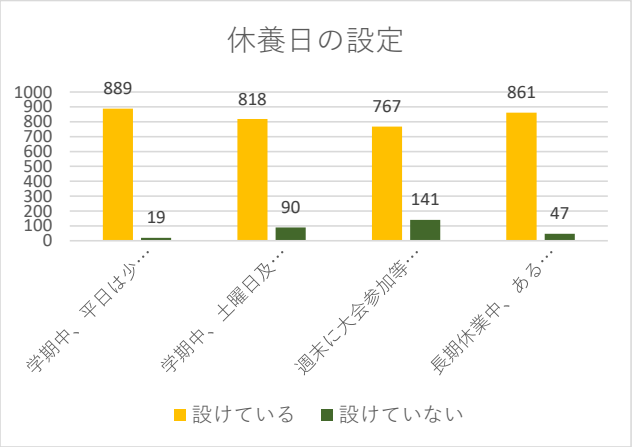
	n	%
正しい知識をもって行っている	608	67%
理解していない点がある	294	32%
その他	6	1%



【結果・考察】
「正しい知識を持って指導している」が６７％、「理解していない点がある」が32％であった。部活動指導者には男性が女性よりも大幅に多い現状があり、知識不十分のため女子生徒が我慢をしながら活動している場面もあることが推測できる。女子生徒の心身の健康管理のためにも正しい知識を得る機会を作っていくことや資料提供を通して周知していく必要があると考える。
※令和２年度指導者の性別数（顧問：男性1172名、女性590名　外部コーチ：男性768名、女性132名）

11、休養日の設定

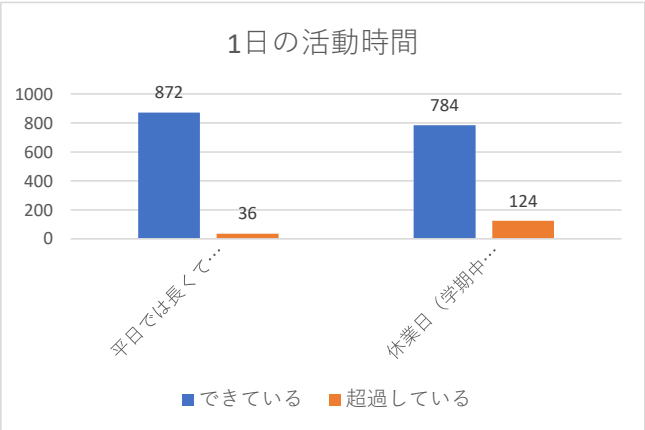
	設けている	設けていない
学期中、平日は少なくとも1日以上の休養日	889	19
学期中、土曜日及び日曜日は少なくとも1日以上の休養日	818	90
週末に大会参加等で活動した場合の振替休	767	141
長期休業中、ある程度長期の休養日	861	47



【結果・考察】
休養日の設定については、３つの項目で「設けている」が9割を超えている。数値から見ても概ね､適切に設定されており、県全体としても周知と推進が図られてきていることがうかがえる。
「週末に大会参加等で活動した場合の振り替え休」について「設けていない」が少し多かった。指導者の献身的な関わりがうかがえるが、成長期にある生徒が、運動、食事、休養及び睡眠のバランスの取れた生活を送ることができるようスポーツ医・科学に基づく基準であるので、適切な休養日の設定を推進していきたい。

12、1日の活動時間

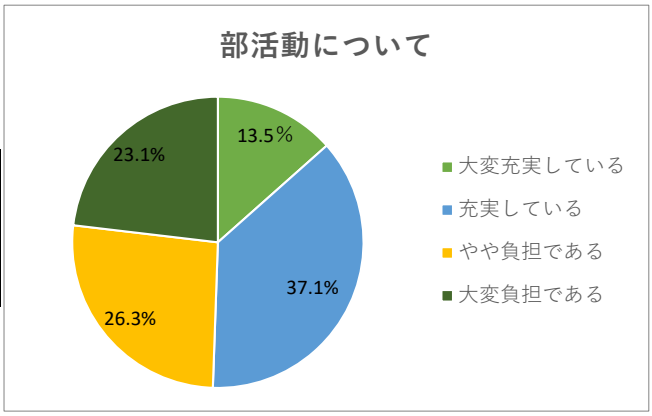
	できている	超過している
平日では長くても2時間程度	872	36
休業日（学期中の週末を含む）は長くても３時間程度	784	124



【結果・考察】
平日は2時間程度、休日は3時間程度の活動時間については、概ね、適正な時間の中で日々活動が行われている。以前のような長時間活動すること＝競技力が上がるというものではなくなっていると考察する。

13、部活動についてどう感じていますか

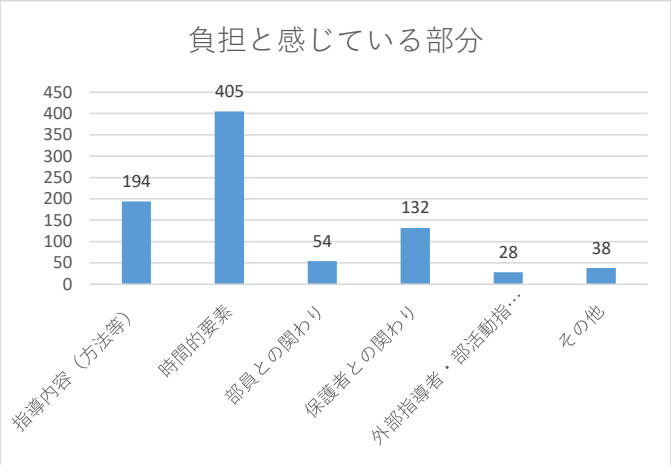
	n	%
大変充実している	122	13.5%
充実している	337	37.1%
やや負担である	239	26.3%
大変負担である	210	23.1%



【結果・考察】
　部活動については、「大変充実」・「充実している」で約５０％、「やや負担」・「大変負担」で約５０％であった。充実感を感じる一方、時間的な要因や様々な対応等で負担感が増加しているものと思われる。

※13で「やや負担」「大変負担」を選択された方のみ（ｎ=449）
14、負担と感じている部分はどういうところですか（2つまで回答）

	n
指導内容（方法等）	194
時間的要素	405
部員との関わり	54
保護者との関わり	132
外部指導者・部活動指導員との関わり	28
その他	38



【結果・考察】
　負担感の理由については「時間的要素」（405人）がもっとも多く9割以上の人が回答した。次いで「指導内容」（194人）、「保護者の関わり」（132人）が多かった。平日の多忙な業務に加え、部活動で時間的に拘束され、専門ではない競技の顧問をすることが背景に考えられる。「運動部活動の在り方に関する方針」の推進で負担軽減を図りたい。また、保護者との間に大きな考え方の違いがある場合の対応に負担を感じることも多くなっていると推測する。「部活動活動方針・活動計画」を作成・公表し、保護者・生徒等との共通理解を図りたい。

【まとめ】

※アンケート結果について、地区別に大きな差は見受けられなかったため、県全体の「課題」と「課題解決に向けての取り組み」をまとめとする。

（1）課題

①適切な部活動運営のための体制整備について

「運動部活動の在り方に関する方針の周知」「年間の活動計画並びに毎月の活動計画・報告」「保護者等に対し部活動の活動方針及び活動計画の公表」の項目で「取り組んでいない」等の回答が多かったこと

②合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取り組みについて

「科学的トレーニングの積極的導入」「発達の個人差や女子の成長期における体と心の状態などに関する正しい知識」の項目で「取り組んでいない・理解不十分」等の回答が多かったこと

③部活動の負担感について

半数以上が「充実」ではなく「負担」と感じている。特に「時間的要素」「指導内容」への負担が多いこと

（2）課題解決に向けての取り組み

①については、本研究結果・考察を周知することで改善を図る。（各学校への結果の配布、会議での周知、HPでの周知）

②については、資料提供を行うことで改善を図る。

③については、部活動の教育的意義を踏まえ、「大会数の上限の目安の設定」「運動部活動の在り方に関する方針の推進」に取り組むことで改善を図る。また、部活動改革の変化に指導者が適応できるようにサポートする。

「運動部活動の在り方に関する方針」の周知と推進

11 月に沖縄県中学校体育連盟調査研究部が実施した、部活動指導者の意識調査「運動部活動の在り方に関する方針の理解」の結果及び考察を受け、以下の情報提供資料を作成しました。部活動に関する改革が加速している今日、子どもたちを支えている指導者の方々がその変化に適応し、共に望ましい運動部活動を目指していくための一助になれば幸いです。

女子の成長期における体と心の状態の理解に向けて

■保健体育担当教師や養護教諭等と連携・協力し生徒を支えよう!

思春期の女子生徒は、月経にまつわるさまざまな悩みを抱えており、学校生活等に支障をきたす可能性があるといわれています。しかし、普段の生活の中ではこうした問題に相談相手がおらず、体調不良のまま困っている女子生徒もいると言われています。
そういう女子生徒に気配りのある声かけを行い、生徒たちが問題を一人で抱え込まない環境づくりをしていきましょう。

「成長期女性アスリート指導者のためのハンドブック」国立スポーツ科学センター
https://www.jpnsport.go.jp/jiss/gaiyou/jigyou/houkoku/nenpo/tabid/1112/Default.aspx

「月経関連疾患と学校生活」文部科学省
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2017/09/27/1396583_05.pdf

合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取り組み

■競技団体等が奨励している科学的トレーニングを積極的に導入し、短時間で効果が得られる指導を行いましょう!

「運動部活動用指導手引き」スポーツ庁
http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop04/list/detail/1408193.htm

■生徒の安全確保を最優先に!

「学校における体育活動中の事故防止について（報告書）」文部科学省
https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1323968.htm
「学校における体育活動中（含む運動部活動）の事故防止について」スポーツ庁
http://www.mext.go.jp/sports/b_menu/hakusho/nc/1418753.htm
「学校での事故防止対策集」独立行政法人日本スポーツ振興センター
https://www.jpnsport.go.jp/anzen/anzen_school/bousi_kenkyu/tabid/337/Default.aspx
「熱中症予防運動指針」公益財団法人日本スポーツ協会
https://www.japan-sports.or.jp/Portals/0/data/supoken/doc/nechusho_yobou_guidebook_2018.pdf

適切な休養日などの設定

■成長期にある生徒が、運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるようにしましょう!

「スポーツ医・科学の観点からのジュニア期におけるスポーツ活動時間について」
公益財団法人日本スポーツ協会
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/shiryo/__icsFiles/afieldfile/2017/12/20/1399653_01.pdf

体罰・暴力の根絶のために

■肉体的、精神的な負荷や厳しい指導と体罰等の許されない指導とをしっかり区別しましょう!

「スポーツ界における暴力根絶に向けて」公益財団法人日本スポーツ協会
https://www.japan-sports.or.jp/tabid/931/Default.aspx

「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」スポーツ庁
https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/013_index/toushin/1402678.htm